

公務員試験対策ゼミ B		講義	准教授 黒沢 賢一	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の教養選択科目	科目ナンバリング	22200130	

### 1. 授業のねらい・概要

公務員試験の教養試験分野の問題は大きく一般知能と一般常識(知識)に分けられるが、その可否を決するのは一般知能の問題である。一般知能はさらに判断推理、空間把握、数的推理、資料解釈などに分けられ、この授業では数的推理と資料解釈について、その問題の解き方を講義する。数的推理は小、中学校で勉強した算数、数学の知識をもとに答えを求めていくもので、資料解釈は与えられた図表から情報を読み取る問題である。特に数的推理については苦手意識を持つ受講生が多く見受けられるが、授業では問題を解くために必要になる算数、数学の知識を復習しながら問題を解き進めていくので得点源にすることは十分可能である。試験に出題される問題はほぼ決まっているので、それを解くための解法パターンをひとつでも多く身につけていくことが大切である。合格ラインをこえるために必要な解法パターンはこの授業ですべて身につけることができるようにする。また数的推理と資料解釈の講義と並行して授業では一般常識の物理、化学、生物、地学の試験に出るポイントも解説していく。

科目名は公務員試験対策ゼミとなっているが、これらは就職試験にも役立つ知識であり、最近の地方公務員試験では、市役所を中心にSPIやSCOAを実施するところがあり、それらの内容にも配慮した授業内容にするので、民間企業への就職を考えている受講生にも役立つ内容になる。

### 2. 授業の進め方

毎回の授業は、①一般知能テスト(数的推理、資料解釈の過去問を教材にした頻出問題を出题)→②解説講義→③一般常識のポイント解説講義という流れで進んでいく。

### 3. 授業計画

1. ガイダンス <数的推理>	9. 図形の計量
2. 整数の性質	10. 図形の諸問題 <資料解釈>
3. 方程式と不等式	11. 実数と割合
4. 比・割合	12. 構成比
5. 平均算、仕事算、ニュートン算	13. 指数
6. 覆面算、魔法陣	14. 増減率
7. 場合の数、確率	15. 総まとめ
8. 記数法、数列	

※数的推理、資料解釈のテストと解説講義に続いて、毎回、一般常識の物理、化学、生物、地学の公務員試験に出題されるポイントを解説する。

### 4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習は必要ないが、授業を受けた後は必ず一般知能テストで出題された問題について授業中にとったノートとは別のノート(これを「課題ノート」と呼ぶ)に問題の解き方を詳細にまとめ直し、すべての問題について何も参照しないで解けるようになるまでくり返し復習することが求められる。また一般常識については授業中に指摘された問題を解けるようになるまで反復する。そのための復習時間としては2時間以上必要になる。

### 5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題ノートの提出後に評価のポイントなどを指摘する。

### 6. 授業における学修の到達目標

(1)公務員試験に出題される一般知能の解法の基礎が理解できるようになる。

- (2) 公務員試験に出題される一般常識の物理、化学、生物、地学の知識を修得する。
- (3) 公務員試験に向けた勉強の仕方が身につくようになる。

## 7. 成績評価の方法・基準

授業に取り組む姿勢(50%)と課題ノートの提出(50%)によって評価する。

## 8. テキスト・参考文献

- (1) 『公務員合格ゼミ 理科』(いいずな書店)
- (2) その他の参考書、過去問集については授業の中で紹介する。

## 9. 受講上の留意事項

毎回、授業のはじめに一般知能のテストをするが、できなくても気にする必要はない。解説講義を聞いて、くり返し復習してできるようになればいい。解説講義はただ聞いているだけでなく、説明の内容をしっかりとメモし、ポイントを聞き逃さないようにすることが大切である。

一般常識の授業はテキストに要点を書き込み、また重要度に応じて色分けしていく手法をとる。授業出席時にはテキストを必ず持参し、赤、青、緑のボールペン(4色ボールペンが便利)、黄色、オレンジ、ピンクの蛍光ペン、付箋(大・中・小の各サイズ)を用意すること。

授業中の私語やスマートフォン等の使用、他の受講生に迷惑となる教室内の秩序を乱す行為については厳しい態度で臨むので十分留意すること。

## 10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

## 11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。